

全仏

ZENBUTSU



448

仏暦2542年 5月 (1999年)
財団法人 全日本仏教会
JAPAN BUDDHIST FEDERATION



加盟宗派顧問弁護士連絡会 (関連記事2頁)

第2回戒名(法名)問題研究会
ルンビニー園マヤ堂復興事業経過報告

加盟宗派顧問弁護士連絡会

各宗派より二十一名の顧問弁護士が出席



明照会館会議室で開催

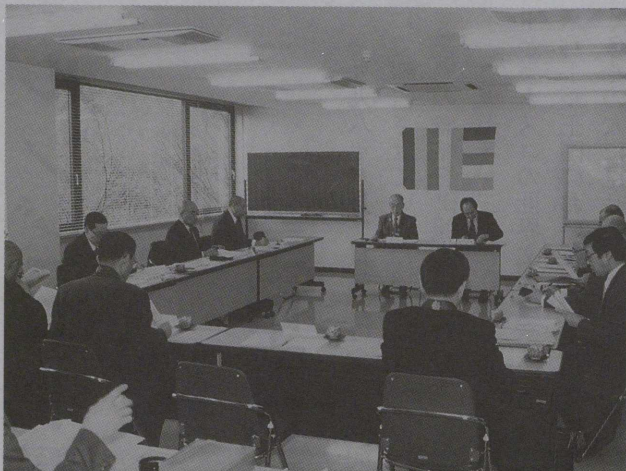
三月三十一日午後二時から、明照会館会議室において、各加盟宗派より二十一人の顧問弁護士の出席の下、第一回顧問弁護士連絡会が開催された。不破仁理事長の挨拶の後、矢吹輝夫氏を座長に選出して議事に入った。自己紹介の後、宗教法人の一部改正によって、昨年度より義務づけられた書類提出の問題点やこの法律が信教の自由を保障する憲法に抵触しないか及び派生する問題と対処方法、更に情報公開法との関連等について熱心な討論が交わされた。

宗教法入法についての問題点が明確化され理解が深まったことについて出席者から評価の声も強く、宗教法人を取り巻く環境が厳しくなっていく折から、共通の理解の中で連携して対処すべき事柄が増加する事が予想されるため、今後も引き続き本連絡会を通じてこれらの諸問題を検討して行くことになった。

(内容詳細は、本誌六月号に掲載予定)

加盟宗派顧問弁護士一覽

原 秀男(天台宗)・竹下正巳(天台宗)・堤中良則(和宗)・角 源三(和宗)・成田由岐子(和宗)・八代紀彦(和宗)・中村文也(孝道教団)・竹内知行(念法眞教)・本井 巽(高野山眞言宗)・田中義信(高野山眞言宗)・長谷川正浩(眞言宗智山派)・宮永基明(眞言宗智山派)・横溝正子(眞言宗智山派)・熊野明夫(眞言宗豊山派)・岡田弘隆(眞言宗豊山派)・福井正明(眞言宗豊山派)・横山正夫(新義眞言宗)・前田 修(眞言宗須磨寺派)・安武敏夫(東寺眞言宗)・別城信太郎(東寺眞言宗)・矢吹輝夫(浄土宗)・西村真人(浄土宗)・松本俊正(浄土宗西山禅林寺派)・森川清一(浄土眞宗本願寺派)・寺内清視(浄土眞宗本願寺派)・安武敏夫(浄土眞宗本願寺派)・松本健男(浄土眞宗本願寺派)・藤原弘道(浄土眞宗本願寺派)・黒田修一(浄土眞宗本願寺派)・山下孝之(眞宗大谷派)・松枝尚哉(臨濟宗妙心寺派)・福岡宗也(臨濟宗妙心寺派)・立野 造(臨濟宗南禅寺派)・三宅 陽(臨濟宗建長寺派)・雨宮眞也(曹洞宗)・吉田賢三(曹洞宗)・村瀬尚男(黄檗宗)・永倉嘉行(日蓮宗)・長谷川正浩(日蓮宗)・中嶋一磨(法華宗本門流)・大堀昭二(法華宗陣門流)・中村 悟(華嚴宗)・本多久美子(華嚴宗)(敬称略・順不同)



第2回戒名(法名)問題研究会 (3月29日 於 明照会館)

第2回 戒名(法名)問題研究会

三月二十九日午後二時から、明照会館会議室において、第二回戒名(法名)問題研究会が開催された。

不破仁理事長の挨拶の後、荒川正憲座長の進行の下で熱心な討論が交わされた。前回と併せて問題点や提言が、数多く出されて来たため、次回には検討項目を絞って、答申の原案作成を目指すことになった。

近畿府県仏教会

全仏関西事務局

合同会議開催

三月十六日、近畿府県仏教会・全日本仏教会関西事務局合同会議が京都で開催された。

全日本仏教会事務総局から連清典事務総長と野生司祐宏総務部長が、全日本仏教会関西事務局からは北島経昭事務総長・小川光廣組織部長・高山芳文国際部長・馬場修任文化部長・渡邊信壽総務部長等が出席して挨拶・自己紹介の後、活発な情報・意見交換を行った。地元近畿府県仏教会を代表して、滋賀県仏教会の前阪良憲事務局長より近畿府県各仏教会の活動状況・問題点等について詳細な説明が行われ論議され、理解が深まった。

全日本仏教会

無料法律相談室

全日本仏教会では、長谷川正浩弁護士による、本会関係者を対象とした無料法律相談室を開設しています。

相談内容は、寺院運営をめぐる諸問題、税務、一般民事等、ご自由ですが、現在、宗教法人法の改定に伴い、相談件数が増えています。相談をご希望される方は、必ず電話で予約をお願いいたします。

日時 原則として毎月第二・第四木曜日

午後一時～

場所 明照会館

(東京都港区芝公園四一七四)

予約 全日本仏教会事務総局

〇三―三四三七―九二七五

ルンビニー園マヤ堂復興事業 経過報告

全日本仏教会ルンビニー委員会

一九九八年八月一日発行の全仏第四〇号にて報告させていただいた以後の状況について経過の概略を御報告いたします。

一九九七年一二月に釈尊の生誕地ルンビニーがユネスコの世界文化遺産に登録された後、ネパール王国において、マヤ堂遺跡をなるべく多くの人に見せたいとの意向が強まり、ルンビニー開発トラストは遺跡の露呈をしながらのマヤ堂復元を強固に主張するようになってまいりました。

全日本仏教会としては、ルンビニーの厳しい気候風土の中において、遺跡を露呈した状態でのマヤ堂復元は、建築、また将来の維持管理に関しても、大変困難なことであるゆえ、マヤ堂修復計画協定書（アグリーメント）に従い、遺跡の永久保存のため埋め戻しの上、マヤ堂を復元することが、最良の方法と説得してまいりました。

ルンビニー開発トラストと全日本仏教会の



世界仏教サミット当日のマヤ堂遺跡

主張が平行線をたどる中、一九九八年七月にルンビニー開発トラストは、遺跡を露呈してのマヤ堂復元計画の設計案を提示してきました。

この案は、遺跡の上に巨大な覆屋をかけ、その覆屋の上にマヤ堂を復元するという大規模な計画でした。ルンビニーを訪ねる多くの人々が、覆屋の上のマヤ堂へ階段を上り参詣した後、覆屋の中に設けられた歩廊を巡り遺跡を見学できるという意図のようでした。

全日本仏教会はこの設計案に対し、南北七十二メートル・東西二十六メートルという巨大な覆屋をかける場合、マヤ堂の外周に支柱を建てる時点で、外周に存在する遺跡を破壊してしまう可能性が高いこと、また、塩分の多い土壌の中に遺跡を露呈することは様々な危険にさらされる可能性があることなどを指摘し、再考を求めてまいりました。

しかしながら、ルンビニー開発トラストは全日本仏教会の説明に理解を見せることなく、折衝は停滞しました。このような状態では進展する希望がなく、全日本仏教会は一九九八年一月開催のルンビニー委員会において、ルンビニー開発トラストの要望である遺跡の露呈のみ受け入れる決定をいたしました。遺跡を露呈することを念頭に置いて、マヤ堂の最善の復元方法を検討していくことになった

のです。

そのような状況の中、ネパール政府は一九八八年二月一日・二日にルンビニーにて世界仏教徒サミットを開催しました。世界各国よりの四百余名の代表者・オブザーバーと数万人の周辺住民が集い、釈尊の生誕地ルンビニーから世界の平和と発展を祈る盛大なセレモニーとなりました。

その期間中、全日本仏教会より派遣された



ネパール・ユネスコ関係者と会談する全仏代表者

展示された遺跡を見る全仏代表者



川井匡俊ルンビニー委員会委員長・川島宏之
 渉外担当委員・派遣考古学者上坂悟氏・櫻井
 英幸国際文化部長・入西智彦国際文化部次長
 の五名と、ネパール王国のコイラ首相・カ
 ドカ青年スポーツ文化大臣・ラマルンビニー
 開発トラスト副委員長・森田徳忠ネパール王
 国大蔵省顧問・北村嘉明ユネスコカトマンズ
 事務所代表との間で、数度にわたりマヤ堂復

元に関する会談のできたことは大きな成果で
 した。

その会談の中で、全日本仏教会からネパール政府に対し、マヤ堂復元のための技術検討委員会を設置することを要望いたしました。これは、ネパール政府・ルンビニー開発トラスト・考古局・ユネスコ・全日本仏教会等が一堂に会し、マヤ堂復興建設案の協議をしていくことが必要不可欠であるとの見解によるものです。

現在は、本年五月以降にこの技術検討委員会を開催するためにネパール政府・ユネスコと連絡を取り合い、三者間の趣意並びに日程の調整をしております。

以上、現在までの経過の概略を御報告させていただきました。長い年月と多額の浄財により進められてきたマヤ堂復興事業への御協力に、心より深謝いたしますと共に、大変御心配をおかけしておりますこと深くお詫び申し上げます。

遠方の地であり、また国民性の全く違うネパール王国にて、日本の仏教徒が一丸となり取り組んできた釈尊への報恩大業であるマヤ堂復興事業の完了までには、もうしばらくの年月が必要と思われまます。何卒御容赦いただき、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

合掌

講演

こん ちにち

今日ただ今の命

きりんいちどう
熙林一道(ポール・牧)

一月二十九日に東京グランドホテルで行われた新年懇親会に先立ち、「今日ただ今の命」をテーマに曹洞宗僧侶、熙林一道(ポール・牧)師の講演が行われた。以下講演の要旨をご紹介します。

※ ※ ※

(文責 社会部)

私は寺に生まれ、四十年間芸人として生きてきました。それがあつた時、どうしても僧侶になりたいという揺るぎない思いのため、伊東盛熙老師のもと再出家をしました。

最初に老師からいさめられたのは、「基本は守れ、そしてそれをアレンジすることをおそれるな。そして、基本が形骸化することをしてはならん。」ということでした。

僕がやるべきことは四十年間の芸人としての生活、生き方、表現方法、キャラクター、そういうものをベースにして、仏道というも

のをより分かり易く、皆様にお伝えすることではないかと考えております。

私は昭和十六年、北海道の小さなお寺に生まれました。父はそのとき、六十六歳、母は二十六歳で、年齢が四十歳も離れておりました。また、私には妹が二人おり、下の妹は父が七十歳の時に誕生した子です。

父は、私を膝にだっこして「立派な坊さんというの、お経をたくさん知っているとかが高いことではないぞ。苦しみや悲しみを持つ人たちに、み仏の尊い教えを正しく伝えることだ。そのことによつて、その人たちが一時、エネルギーを持つこと、元気を出すこと、そういうことのお手伝いをしてあげること。おまえはそういう坊さんになれよ。」と導いてくれました。

その父の言葉というのは、フランスの劇作

家、マルセル・パニョルの『笑いについて』という一冊の本の中に見事に具現しています。その中で「喜劇役者とは、工場から油にまみれて家路を急ぐ人たち、親兄弟・子供に先立たれた人たち、災害で家を失った人たち。そういう人たちに、たとえ一時でも微笑みと安らぎを与えてあげられるもの。そういう者たちのことを喜劇役者といい、そう呼ばれる権利がある。」と述べられています。

この言葉と僧侶が、何と一体をなすものか。「芸禅一如」、喜劇役者と僧侶は二足の草鞋ではない。一対の草鞋だ。こう私は思います。私の母は障害者でした。父と母が四十歳の差を越えて夫婦となったのは、母が重度の障害者であつたことが、僧侶である父の心を動かしたのではないのでしょうか。もしそうならば父を尊敬します。

そして私が十歳の時に父は遷化しました。残されたのは、母と、私と妹二人でありました。

貧しい寺です。檀家が五十軒位しかありません。しかも父が遷化したために新しい住職一家が入ってきて、私たち一家が寺を出ようとした時、母は剃髪をし出家をしました。

しかし母は、その時、「母さんはおまえたちの母ではなくて、み仏のお弟子の末端に座りました。だから、おまえたちが力を合わせ

熙林一道（ポール・牧）師



て頑張らないと、このお寺を守ることはできませんよ。」と言われました。

私もその時剃髪、得度し、五里六里の山道を吹雪の中、山間のたつた一人の檀家さんのためにお経をあげに行きました。そのため学校へは、ほとんど出席することができませんでした。

全 仏
父を失った寂しき、そして、極寒の地、北海道のさいはて、貧しさ。この三重苦が我々を襲います。そんな時、母は、不自由な足で私たちの前でわざと転んで、「おまえたち笑えたね。良かったね。これから悲しいことがあった時に、反対に笑うんだよ。そうしたら、悲しいことはどこかに飛んでいってしまうよ。」と言ったのでした。

よ。」と言ったのでした。

今思うに、どうしてあの時、母にありがとうといつて、合掌してあげることができなかったのかと思います。それ以後私は、様々なことに突き当たりながら、私なりの悲しみ、苦しみを乗り越えて来たつもりであります。

道元禪師が七十五年の時空を超えて、我々に問いかけることとは何でしょうか。それは次の一言につきると思います。

「にこにこ面で、一つ神（ひとつかみ）これは、いつもにこにこしていたら幸せをひとつかみできるといふ、み教えであります。

これは、一字が当て字になっています。いつもにこにこしていないさい。そうすると神さまが近づくよ。ここでいう神とは、「カミ」という宇宙空間に存在するエネルギー体を指します。いつもにこにこしていれば、自分自身がエネルギー体になれると理解することが、道元禪師のみ心に沿うことだと私は考えます。

また、我ら仏道を歩むものが、だれでも知っている慈悲ということばがあります。釈尊は慈悲を説いたわけですが、この「慈」には「かわいそうになあ」とふりがなをふれます。では、何がかわいそうなのでしょう。

たとえば、四年前におきた阪神淡路大震災。六千有余人の皆さんが紅蓮の炎の中で尊い命を落とされました。この「かわいそうになあ」ということは、それらの人々に捧げる言葉であります。被災地からの第一報が報道されたとき、誰一人残らず「かわいそうになあ」というように思われたのであります。では、「悲」とは为什么呢。

震災を知ったとき、「自分の住んでいる地域でなくて良かった。」「うちが焼け出されなくて良かった。」とは思いませんでしたか。

「悲」という言葉の中には、これらの悲しみの内にいる人、奈落の底でもだえ苦しむ人、そういう人々の悲しみに共感し、共有することが含まれています。この「悲」があつてこそ慈悲という言葉が輝くと、釈尊は指し示しておられるのではないのでしょうか。

釈尊の慈悲ということばをより深く理解するならば、この「悲」にこそ全ての思いがこめられていると思います。

さて、私の指パッチンですが、自分の中のエネルギーを、誰かにメッセージしたい。ということなんです。その誰かとは、自分が芸人になった時からイメージしていたことですが、悲しみ苦しむ人たちです。

「病みし者、汝ひとりにあらざるを。」ということを共感するために、こんな指を鳴らすパフォーマンスが皆様に受け入れられたらとてもうれしい。こんな風に思っております。

本日は誠にありがとうございました。

全日本仏教会

仏教とマルチメディア研究会公開セミナー

仏教とマルチメディア

◎六月八日(火)

展示会 午前十一時～午後六時
基調講演、シンポジウム 午後一時～五時

◎リーガロイヤルホテル京都(入場無料)

◎内容

マルチメディアの仏教界への今後の応用の可能性について

基調講演

小栗宏次氏(愛知県立大学教授)

加盟団体関係者によるシンポジウム

マルチメディア関連業者の展示

※お問い合わせ

全日本仏教会事務局社会部

電話〇三―三四三七―九二七五

事務局録事

―四月―

五日 西山浄土宗深草派管長晋山式出席

九日 法律相談室

十二日 局内会議

日宗連監査会

十三日 同和委員会

十四日 高野山真言宗管長晋山式出席

十五日 日宗連理事会・参議会

十六日 白川良純元理事長本葬儀参列

平成十一年度教化セミナー

葬儀のこれからを考える

◎六月三十日(水)午後二時より

◎芝・増上寺三縁ホール

◎内容 シンポジウム

パネリスト(順不同)

奈良康明師(駒沢大学教授)

大村英昭師(大阪大学教授)

村上興匡氏(東京大学助手)

※お問い合わせ

全日本仏教会事務局社会部

電話〇三―三四三七―九二七五

哀 悼

二十一日 法律相談室

二十三日 同宗連総会出席

二十八日 局内会議

奥田行朗師(全仏元評議員)

二月四日遷化 八十七歳

黄檗宗前管長

白川良純師(全仏元理事長)

四月九日遷化 八十五歳

真宗大谷派元宗務顧問

仏旗・バッチ

頒布御案内

大仏旗 たて一四〇cm×よこ二二〇cm

三二、〇〇〇円

中仏旗 たて九〇cm×よこ一三五cm

一八、〇〇〇円

小仏旗 たて七〇cm×よこ一〇〇cm

九、三〇〇円

手旗 たて三五cm×よこ五〇cm

八、〇〇〇円

法輪旗 たて九〇cm×よこ一三五cm

七、四〇〇円

仏旗バッチ 二cm×四・五cm

五〇〇円

法輪バッチ 直径一cm

一、〇〇〇円

お申し込み

全日本仏教会財務部

電話 〇三―三四三七―九二七五

FAX 〇三―三四三七―三二六〇